

平成の大合併にみるコミュニティへの影響とその問題点について

茨城県水戸市を事例として

【目次】

はじめに	第1節 茨城県の現状とその問題点
第1章 コミュニティの定義及びその役割について	第2節 水戸市の現状とその問題点
第1節 コミュニティの定義	第3節 内原町の現状とその問題点
第2節 コミュニティの果たす役割	第5章 水戸市における合併に伴う問題点とその対応
第2章 昭和の大合併について	第1節 平成の大合併にみる水戸市の問題点
第1節 昭和の大合併の概要	第2節 水戸市の問題点への対応
第2節 昭和の大合併にみる問題点	第6章 現段階で考える対応と将来的な展望について
第3章 平成の大合併について	第1節 平成の大合併にみるコミュニティへの影響
第1節 平成の大合併の概要	第2節 コミュニティの将来的な展望と考察
第2節 平成の大合併にみる問題点	おわりに
第4章 茨城県水戸市及び内原町の概要	

【目的】

現在、資本主義社会の発展過程においてコミュニティの崩壊が生じてきてしまっている。資本主義社会では、企業が増え、それを後押しするように日本政府も全国総合開発計画を始めとする都市化やそれに伴うインフラ整備を推進してきた。そして、都市化が進む一方で、都市への一極集中化の影響で地方の過疎化が問題視されるようになってきた。また、平成の大合併を代表する市町村合併の影響で地域格差やコミュニティの在り方が問題となっている。人間社会を形成する上で、最も重要なコミュニティの崩壊がその影響により問題視される中、今後コミュニティがどうあるべきで、そのためにはどういった事が求められるのかを考察し、コミュニティの社会的意義を再認識したい。

【方法】

関連文献・各統計資料を収集し、現在の茨城県水戸市、ひいては日本におけるコミュニティの問題を取り上げ、現状を明らかにした上で、将来の展望を述べ、コミュニティの社会的意義を再認識した。

【結果】

現在、コミュニティの崩壊が問題視されている。これは、資本主義社会の発展過程において、都市部への一極集中化が起り、コミュニティを形成及び維持をしていくための人・場所が失われつつあるからである。また、それに拍車をかけるように広域合併が進められた。事例に挙げた都市部にあたる水戸市は人や建物などの混在化による、農村部にあたる内原町は過疎化によるコミュニティの希薄化が問題視されているが、この合併の場合、水戸市から内原町に人を流動させて、人口密度のバランスを図ると同時に、お互いの特徴を生かしたコミュニティに対する見直しが必要であることが分かった。まちづくりとして、目に見えて分かる都市開発などと比べると軽視してしまいがちなコミュニティだが、「まち」というものは人と場所が無ければ存在し得ないものである。今回の調査及び研究により、人と地域を結ぶ役割を担っているコミュニティは、いわばまちの基礎であり、現在において最も重視されるべきであることが再認識できた。

【主な参考文献】

- ・「ゲマインシャフト」新明正道・著作（恒星社厚生閣・刊、1970年）
- ・「地域社会へのまなざし」大久保武・中西典子・編（株式会社文化書房博文社・刊、2006年）
- ・「茨城県市町村概況 平成15年度版」茨城県総務部市町村課・編（ぎょうせい・刊、2003年）